

加東市の環境問題への取組

温室効果ガス

排出削減への取組

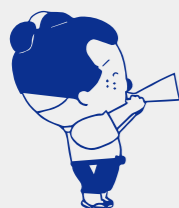
温室効果ガスとして、第一に名前が挙がる二酸化炭素は、動植物の代謝の過程で発生する一方、私たちが暮らしに使うエネルギーを生み出すための発電や自動車で移動するときのガソリンなどの燃焼によっても生じます。

市では、「加東市エコハウス設備設置補助制度」を創設し、ご家庭での省エネ・創エネ・蓄エネ設備の設置を促進したり、「うちエコ診断」を実施し、ご家庭の実情に合わせた省エネ生活をアドバイスしたりしています。

また、加東市役所や市の公共施設では、電気使用量を抑えるため、職員の定時退庁を促す「クール・アース・デー」の実施や、低公害車の導入促進、施設照明のLED化、太陽光パネル等の再生可能エネルギーの利用により、令和元年度は温室効果ガスの排出を平成29年度対比で17.5%削減しました。

今後も市では、国の「温室効果ガス排出削減目標」に掲げられた「2050年温室効果ガス排出実質ゼロ」に向けて、低炭素・脱炭素社会実現のための取組をさらに推進していきます。

ごみ減量、資源循環の取組



地区、自治会、保健衛生推進協議会と連携して、「ごみ減量・リサイクル懇談会」を開催し、ごみに関する問題解決のための話し合いや分別方法の説明を行ったり、出前講座を実施したりして、ごみに関する様々な啓発活動を行い、3R(Reduce:減量、Reuse:再利用、Recycle:再生)を推進しています。

8年連続

ごみが1番少ないまち

加東市は、市民のみなさんのご協力により、8年連続で兵庫県内で生活系ごみの1人1日あたりの排出量が一番少ないまちとなっています。



市では今後も、ごみに関する学習機会の充実、記載内容の簡素化、多言語化による分かりやすい資料づくり、資源回収機会の充実などといった、ごみ減量、資源循環の取組を進めていきます。

自然や環境に「直」に触れ、考える

「環境学習」

小学生を対象に、地域の自然に触れ、環境への理解を深めてもらう環境学習会「かとう自然がっこう(川の巻・森の巻)」を開催しています。川の巻では、身近な川に生息する生き物の観察や、川の汚れを測定するCODテストを行い、森の巻では、管理されている里山とそうでない里山との比較や間伐体験を行うことで、身近にある川や山についての理解と関心を深めてもらいます。

また、中学生、高校生を対象に、大気や海洋等の様子が表示できるデジタル地球儀「触れる地球」を用い、テーマを決めて研究発表を行う「触れる地球」環境シンポジウムも開催しています。中学生、高校生の発表を通して、市民のみなさんに地球環境について考えてもらう機会としています。



“Earth” where we live

今「何処に」住んでいますか？

私たちが住んでいるのは「地球」です。約38億年前、様々な条件や奇跡が「生命」を生み出して以来、生命は「種の存続」のために、気候変動や地殻変動により引き起こされる環境の変化に自律的に対応してきました。

やがて、私たち「人類」が誕生。初めは他の生物と同様にその形質や生活を環境に適応させてきましたが、産業革命以降、人類が環境に適応するのではなく、環境を人類に適応させるようになり

ました。あたかも、地球が絶対的で無限の存在であるかのように振舞ってきた代償が積み重なり、これまで保たれてきた地球環境のバランスがとれなくなりました。その結果、海洋汚染、砂漠化、そして地球温暖化など、様々な環境問題が引き起こされています。このまま環境破壊が続けば、私たち人類はおろか、地球に住むあらゆる生命の存続が危機にさらされ、実際に種の存続がかなわなかった例も多数あります。

今、地球に生きる私たち、一人ひとりの小さな行動が未来の地球の運命を大きく左右します。まず、身近なところから「地球」について知り、できることから始めてみませんか。

